

Title	<書評>『冷たい親密性』
Author(s)	千葉, 和矢
Citation	年報人間科学. 2011, 32, p. 99-103
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/5778
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『冷たい親密性』

Eva Illouz

Cold Intimacies: The Making of Emotional Capitalism

London: Polity Press, 2007

や社会的権力関係としての資本主義をとりあげている。

感情は資本主義

アドルノ(Theodor Adorno) に依拠しながら、権威主義的パーソナリティ ものとしての感情のかかわりであり、本書では社会哲学者のテオドール 教授職にある。研究対象は、コミュニケーションと文化的に構成された

社会において、

商品化(感情労働)や心理学的言及・ナラティヴセラピー

を通して、変質を続けていると彼女は主張する。

年にモロッコで生まれ、現在はエルサレムのヘブライ大学で、社会学の

ている。本書の著者であるエヴァ・イロウズ(Eva Illouz) は、

一九六

点を置いて、男性と女性の純粋な関係性、性的にも感情的にも対等な関

The Making of Emotional Capitalism)

は、

感情と資本主義のかかわりに焦

感情的な資本主義の形成』(Cold Intimacies:

係が実現できる可能性を探求し、性差に基づく社会的権力関係を批判し

千葉 和矢

るものであり、 残してきた。感情社会学はそれを対象化し、 感情を客観的に観察不可能かつ論理的に再構成不可能なものとして取り 動かされる場合や特定の感情を求めて行為する場合も多い。近代科学は 過程との関連において分析しようとする。 たちの行為は必ずしも自覚的で理性的であるとはいえず、感情によって われている。その背景に置かれているのは、 われてきたものであったが、近年、感情と社会学を結び付ける試みが行 本書でイロウズが用いる「感情」 「感情」という視点は、 従来、 心理学や生理学、 は、 行為に向かって人々を駆り立て 行為という概念である。 他の社会制度や社会的経験 精神分析の領域で扱

の捉え方は、感情が初期の社会や文化と切り離されず、自己や自己に対 行為に付与されたエネルギーである。 イロウズの「感情

を解釈したことにはならないからである。と解釈したことにはならないからである。を解釈したことにはならないからである。を解釈したことにはならないからという事実して文化的に同時期に位置している他者と常に関係しているという事実して文化的に同時期に位置している他者と常に関係しているという事実して文化的に同時期に位置している他者と常に関係しているという事実して文化的に同時期に位置している他者と常に関係しているという事実して文化的に同時期に位置している他者と常に関係しているという事実して文化的に同時期に位置している他者と常に関係しているという事実して文化的に同時期に位置している他者と常に関係しているという事実して文化的に同時期に位置している他者と常に関係しているという事実

る古典的社会理論が知られていないことを指摘している。的言語を用いているものが多いこと、また、感情について取り上げていを研究する社会学者に対して、彼らの感情についての捉え方が、心理学がら、感情を社会学的に捉えることに挑戦している。その一方で、感情また、序論において、イロウズは、社会学の古典的研究を取り上げな

きどきの気持ちを満たすためになされる。方向性としては、感情が社会でックス・ウェーバー(Max Weber)は、行為の類型論で、社会的行為の感情理論と感情社会学の問題設定の方向性について確認しておこう。として、目的合理的行為、価値合理的行為、伝統的行為、感情的行為の感情理論と感情社会学の問題設定の方向性について確認しておこう。の感情理論と感情社会学の問題設定の方向性について確認しておこう。本書全体を通してイロウズが取り上げている古典的社会理論のうち、本書全体を通してイロウズが取り上げている古典的社会理論のうち、本書全体を通してイロウズが取り上げている古典的社会理論のうち、本書全体を通してイロウズが取り上げている古典的社会理論のうち、本書全体を通してイロウズが取り上げている古典的社会理論のうち、

を起こす場合も指している。関与するとし、また、積極的にある特定の感情を経験させるような作用的に規範化されているという視点である。感情の形成過程に社会規範が

それを促すような文化的装置の記述や解明を必要としている。 として感情を捉えることであり、他方で、第二次感情とは、特定の社会 類別している。第一次感情とは、 対応させることによって感情を社会学するということを追究している。 りあげるという視点であり、社会状況と感情をそれぞれより分化させ、 と考える。方向性としては、ある社会状況や社会条件がある感情をつく を当てており、感情が社会あるいは共同体の秩序の根底に内在している 感情に対する社会の作用ではなく、社会的なものへの感情の作用に焦点 視点である。そのため、感情的な現実構成の具体的なあり方、たとえば、 しては、感情による現実構成、つまり、感情が社会を作り上げるという 条件が特定の感情を心的な結果として生起させることである。方向性と に持ち込まれる社会形式として、そして社会関係に大きくかかわるもの 「連帯」など社会的現実を構成する規定的な形態として感情を扱っている。 ゲオルグ・ジンメル(Georg Simmel) は、第一次感情と第二次感情を エミール・デュルケーム(Émile Durkheim)は、著書『社会分業論』で、 人が相互作用を営む場合にアプリオリ

を明らかにしようとしている。世界をもっとも社会的に構成している基作用などによって特定の感情が統制・安定などの機能を担っていることいる社会的機能を問う視点を持ち、社会制度・組織・集団あるいは相互点から感情にアプローチしている。イロウズは、個々の感情が果たしてイロウズは本書の中で、先にあげた三つの代表的な立場とも違った視

ティへの影響があるということでもある。れは、社会の中でジェンダーの規定が変化すれば、自己やアイデンティ定がなければ、役割やアイデンティティが生じないからだ。しかし、そらである。社会において、ジェンダーという男性、女性という性別の規本的な次元は男性と女性であり、生殖を通して感情的な文化が生じるか

現代の社会は、経済の複雑化やインターネットテクノロジーの発達に、経済の複雑化やインターネットテクノロジーの発達によって急激に変動しており、自己を構成するものや私的・公的領域、ジェよって急激に変動しており、自己を構成するものや私的・公的領域、ジェよって急激に変動しており、自己を構成するものや私的・公的領域、ジェよって急激に変動しており、自己を構成するものや私的・公的領域、ジェよって急激に変動しており、自己を構成するものや私的・公的領域、ジェよって急激に変動しており、自己を構成するものや私的・公的領域、ジェよって急激に変動しており、自己を構成するものや私的・公の領域、ジェよって急激に変動しており、自己を構成するもので表演している。

女性を取り巻く親密性やアイデンティティを分析している。 イロウズは、全体を通して、感情的な資本主義という観点から、男性、

する。二十世紀におけるアメリカの大衆文化に著しく影響していたフロ資本主義と結びついて人々の自己合理化が促進されるとイロウズは主張時徴として感情が見られることを取り上げている。たとえば、労働にお特徴として感情が見られることを取り上げている。たとえば、労働にお特徴として感情が見られることを取り上げている。たとえば、労働にお特徴として感情が見られることを取り上げている。たとえば、労働にお特徴として感情が見られることを取り上げている。たとえば、労働におりな感情的な文化の構成と密接に関わっていることや資本主義の構成が、激しく特別な感情的な文化に著しく影響していたフロ

が商品化され売買されることを指摘している。 イトの精神分析を援用し、感情を精神分析と心理学的な方法を用いて、 ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場では、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場とない、労働者の家族関係で親と子の情緒的紐帯が失われ、感情ない職場といい。

の能力が必要になっていることをイロウズは明らかにする。親密な関係に再構築するために、経営者・労働者のコミュニケーション間関係に注意を払わない労働環境を構築してきたこれまでの資本主義を間関係に注意を払わない労働環境を構築してきたこれまでの資本主義をといます。と主張している。人を取り入れ、道徳性を徐々に根付かせる必要があると主張している。人を取り入れ、道徳性を徐々に根付かせる必要があると主張している。人を取り入れ、道徳性を徐々に根付かせる必要があると言いていることをイロウズは明らかにする。

ンを土台として「健康的」で親密な関係をもたらすとイロウズは主張する。ミニズム運動は、性における平等や性から解放されたコミュニケーショ形成する必要があることを指摘する。同時に、社会学的視点から、フェとつながっている問題であるかを考察しており、職場が女性労働者にムとつながっている問題であるかを考察しており、職場が女性労働者にまた、第一部では、いかにして心理学やセラピー的言説がフェミニズ

ラハム・マズロー(Abraham Maslow)のナラティヴセラピーの重要性をはし、自己実現を叶えようとする人々を調査対象者とすることで、アブ化し、自己実現を叶えようとする人々を調査対象者とすることで、アブル会い系サイトを通して、人々の持つ感情の苦しみや第一部で取り上げ出会い系では、イロウズが自己啓発書、女性誌、トークショー、支援団体、第二部では、イロウズが自己啓発書、女性誌、トークショー、支援団体、

に立っており、間違った物語に囚われている患者を、治療者が正しいたに立っており、間違った物語に囚われている患者を、治療者が正しいが語へと導く、という進展が一般的であった。しかし、マズローによれば、どのような物語になるかは平等な主体どうしの主観の持ち方の問題ば、どのような物語になるかは平等な主体どうしの主観の持ち方の問題は、どのような物語になるかは平等な主体どうしの主観の持ち方の問題は、どのような物語になるかは平等な主体どうしの主観の持ち方の問題は、どのような物語になるかは平等な主体どうしの主観の持ち方の問題は、どのような物語になるかは平等な主体どうしの主観の持ち方の問題は、ガライアントの対等性を旨としていた。

いうものは存在しないと考える。それゆえに、ナラティヴセラピーの普を媒介にして構成されるものであって、「客観的真実」や「本質」などとウズもマズローと同様に、現実は人々のコミュニケーションの間で言語ドバイスであり、苦痛やトラウマを特別扱いしていると指摘する。イロイロウズは、かつてのセラピーのあり方は、治療者からの一方的なア

れるように人々を仕向けていると主張する。と示唆する。その結果、資本主義が自己実現や「本当の自分」を求めら供存は、制度化された「感情的な領域」から生じてくるものであるとし、理的に理想的な利益と関連するという。同時に、自己実現に伴う苦痛の及と確執は、市場や資本主義において様々な社会集団の操作によって物

関係性を論じている。 関係性を論じている。第一部では男性と女性の関係性が資本主義というシ なアムの関係を焦点にしていたが、第三部では、インターネットという なアムの関係を焦点にしていたが、第三部では、インターネットという のは、インターネットという のは、インターネットという のは、インターネットという のは、インターネットという のは、インターネットという のは、インターネットという

インターネットで互いに出会いを求める際、人々は、自分自身や理想 の相手を徹底的にカタログ化し、プロフィールにまとめて反映させている。また、彼らは出会い系サイトから送られてくる何千ものパートナーを出会いの場について、イロウズは、従来のロマンティック・ラブが現る出会いの場について、イロウズは、従来のロマンティック・ラブが現る出会いの場について、イロウズは、従来のロマンティック・ラブが現る出会いの場について、イロウズは、従来のロマンティック・ラブが現る出会いの場についる。とを、出会い系サイト利用者の女性とのインタビューを通して明らかにしている。

従来、「ロマンティック・ラブ」という理念は、即座に相手に魅力を

響を及ぼしてきたという。 響を及ぼしてきたという。 響を及ぼしてきたという。 と、はの間がれた状況に二重の強い影の態度は、一方で、近代社会の有する「男性性」と、積極的に、また、の態度は、一方で、近代社会の有する「男性性」と、積極的に、また、の態度は、一方で、近代社会の有する「男性性」と、積極的に、また、の態であると、すなわち、「一目ぼれ」とみなされ、相手の人柄の直感的感じること、すなわち、「一目ぼれ」とみなされ、相手の人柄の直感的

インターネットと関係性についてイロウズは、アーヴィン・ゴッフマインターネットと関係性についてイロウズは、光小の音威となると主席していると指摘している。本書における、「当惑をはらむ相互行為秩序の装置であると分析している。本書における、「当惑とはらむ相互行為秩序の装置であると分析している。本書における、「当惑」とは、自己実現の装置であるとががある。イロウズは、当惑が経済の複雑化やテクノロジーのもまうことである。イロウズは、当惑が経済の複雑化やテクノロジーのもまうことである。イロウズは、当惑が経済の複雑化やテクノロジーのもまうことである。イロウズは、当惑が経済の複雑化やテクノロジーのもまうことである。イロウズは、当惑が経済の複雑化やテクノロジーのもまうことである。イロウズは、当惑が経済の複雑化やテクノロジーのもまうことである。

社会学的に批判していることである。二つには、社会学の古典研究によっいた感情を資本主義と結びつけ、同時にこれまでの感情をめぐる言説を本書の特徴は二点ある。一つは、心理学や精神分析の領域で扱われて

やインターネットという領域を結び付け、私たちに新しい視野を示してうパースペクティブは、自己と他者よって形成される親密性と資本主義中で方向づけることに成功していることである。感情的な資本主義といて方向づけられていた感情社会学のアプローチとは別に感情を社会学の

鉒

いる。

- な時代――』,世界思想社.(1)岡原正幸ほか編,一九九七,『感情の社会学――エモーション・コンシャス
- (2) 岡原正幸によると、ウェーバーの感情的行為について、感情社会学者の中では否定的な評価が下されることが多いという。その理由は、第一に、感機制あるいは行為の原因として設定され、その成立などが社会学的に問題機制あるいは行為の原因として設定され、その成立などが社会学的に問題機力あるいは行為の原因として設定され、その成立などが社会学的に問題とされるわけではない。第三に、行為の諸類型の中で目的合理的行為を特化されるわけではない。第三に、行為の諸類型の中で目的合理的行為を特化されるわけではない。第三に、行為の諸類型の中で目的合理的行為を特化されるという事態を生んでいる。
- 的な職場環境よりも職場における個人の人間関係が重要であるとした。ようとして計画された実験。この実験の結果、労働者の作業能率は、客観(3)照明や休憩時間などの物理的労働条件が工場生産性に及ぼす影響を検討し
- (4) Anthony Giddens, 1995, The transformation of intimacy: sexuality, love and eroticism in modern societies, Polity Press.
- るセクシュアリティ、愛情、エロティシズム――』,而立書房・)(=一九九五,松尾精文・松川昭子訳,『親密性の変容――近代社会におけ